



## オーストラリア・ビクトリア大学

A類英語選修

岩田 真央

留学開始時の学年：2年生

留学期間：2014年4月～11月

### 自分の目標に一步近づくために決めた留学

私は、学校で英語を教えたいという昔からの夢があり、英語を教えるからには、しっかりと英語力を身に付けていたいと考えていました。そのために私自身が、英語を使って海外で生活する必要があると思い、留学を決めました。

もう1つのきっかけは、大学1年生から住んでいた東久留米国際学生宿舎での様々な背景を持つ留学生達との出会いです。彼らと共に生活していく中で、どうやってお互いを理解し共生していくか、言語以上に、異文化理解の大切さにも気づかされました。そこで身を持ってその理解を深めたいと思い、語学だけではなく、大学の授業を受講し専門性を深める事の出来る大学の交換留学に応募しました。

### ビクトリア大学での学生生活

私がメルボルンのビクトリア大学に留学を決めたのは、世界各国から様々な人々が集まる異文化社会の中で、言語教育が盛んに行なわれているからです。

メルボルンに着いてから10週間ほどは、語学学校に通いました。大学での授業や課題は全て英語でこなさなくてはならないため、レポートの書き方や、大学に必要な英語力の基礎をここで培いました。語学学校では各国からの留学生が学んでいるため、いろいろな国の友達ができ、お互いに助け合いながら充実した時間を過ごすことができました。

大学では、言語や異文化コミュニケーションについての授業を取りました。授業は講義とチュートリアルで構成され、とくにチュートリアルはディスカッションやプレゼンなど実践的な活動が行われるため、毎回英語で自分の考えを伝えなければなりません。正直なところ、私の英語力では授業についていくことが大変でした。しかしまわりの学生がフレンドリーに接してくれたり、先生が日本に興味を持ってくれ、授業中、日本のことを多く質問してくださり、なんとか授業についていくことができました。それでも課題の量は、私が学芸大で受けてきた授業よりもはるかに多く、毎週20ページ以上英文資料を読むことや、英語でのレポート、テスト勉強にはかなり時間がかかりました。今、思い返すと、苦労した分、学ぶことは多かったと感じています。

## 大学以外の生活

海外で一人生活していく中で、勉強だけではなく、現地の生活にもっと溶け込みたいと思い、休日は外へ出かける事を心掛けました。メルボルンは「文化の街」と言われるほど、町中に芸術的なものが溢れています。アート、道端で楽器を演奏する人が奏でる音楽やパフォーマンス、そして様々なイベントがありました。世界各国の美味しい食べ物もあります。多くのビルが立ち並ぶ中心街の中には、緑あふれる広々とした公園や川があり、郊外に出なくても、きれいな景色を見ることができました。メルボルンは、多くの発見があり、刺激的な街です。



ところで、私にはオーストラリア留学を決めたもう一つの理由があります。中学生の時に空手道の大会でオーストラリアに行ったことです。そのときは、片言の英語しか話せませんでしたが、戦った選手と一生懸命コミュニケーションをとり、友達になりました。今でも彼らとは連絡を取り合っています。

そこでオーストラリア留学中も空手道をしたと思い、現地で道場を探し、週に2～3回練習に励みました。空手道を通して出会った人たちからは、風邪をひいた時に薬をもらったり、街を案内してもらったり、イベントに招待してもらったり、道場以外でもたくさんサポートしてもらいました。また道場にはオーストラリア以外のバックグラウンドを持つ人がたくさんいましたが、彼らから様々な文化を学んだことにより、大学では学べない異文化理解を得ました。

空手道を長年続けてきた私にとって、道場で空手をする事は、自分の強みを生かせる場でもあり、大学で課題に追われたり、英語が話せなくて落ち込んだりしていた時も、リフレッシュできる場でした。これから留学する人たちには、勉強だけでなく、趣味や強みを活かすこともぜひ考えてほしいところです。

## さらなる挑戦へ

たった7ヵ月の留学生活でしたが、日本での大学生活では学べないことを習得し、海外で1人生活することで、精神的に強くなりました。様々な人との出会いによって、いろいろな考え方を知ることができ、たくさんの新しい経験をして成長もしました。人生のどの1年間よりも、たくさんの事を吸収した1年であり、今の私に挑戦する勇気や、前向きな考え方を与えてくれています。



そして、またトビタテ！留学 JAPAN で、オーストラリアに飛び立つ予定です。